

topics

# 飛馬ふじ 収穫基準値をクリア

01



糖度のクリアを見届ける生産者

当JA高品質ブランドの飛馬ふじの糖度検査JA指導員によって、11月5日から各園地で開始された。今年以降雨が少なく糖度が高めであったため、各園地で基準の14度をクリアし、色も赤くなったことを確認し収穫作業を行った。生産者らは「今年をよく出来上がったので早く消費者へ食べてもらいたい。」とワクワクした表情で言っていた。

topics

# 青森県知事賞受賞

02



表彰状を獲得した三上加工施設責任者

11月6日、黒石市の津軽伝承工芸館にて、第53回青森県食品衛生大会が開催された。今回、当JA加工施設の衛生管理が他の施設の模範となるような環境であったことから、「食品衛生優良施設県知事賞」を受賞した。境谷工場長は「当JA加工施設の職員が一丸となり獲得した賞であり、来年はさらに上の賞を獲得できるように精進したい。」と来年の大会に期待を寄せていた。

topics

# 飛馬りんご 九州でアピール

03



今年のリンゴの出来秋をアピールする三上専務

11月9日㈶イオン九州と青森県の連携で、安全・安心な農林水産物とその加工品等の情報を発信し、青森県産品の消費拡大を図るイベントが行われ、当JAから三上隆基専務理事が出席してリンゴのPRを行った。三上専務理事は「今年のリンゴは雨も少なく日光に当たる時間が多かった為、糖度が高く食味がとてもいい」と消費宣伝を行った。店内では消費者がトキと早生ふじを試食し「とても甘くて美味しい」と感想を述べていた。

topics

# より良い土づくりを 目指して

04



持ち込んだ土を一斉に乾燥させる

リンゴの収穫作業も終わり、多くの生産者が土壌分析をする為当JAに園地の土壌を持ち寄った。飛馬ふじ生産者は土壌診断が義務付けられている事から、半数以上が飛馬ふじの園地の土だが、それ以外のリンゴ生産者もより良いリンゴを生産しようと、積極的に土壌を持ち寄っていた。分析結果は一カ月程で生産者の元へ届けられる。何か不明な点がございましたら農業振興課までお問合せ下さい。



交換したジュースが生産者の車へ積まれる



今回から収集可能になった枝受け支柱



贈答用リンゴを詰める作業員



タブレット端末でスムーズにお客様と確認

topics

ジュース交換  
最盛期迎える

05

11月23日、当JA特産販売課ではリンゴジュースの交換に多くの生産者が訪れた。収穫作業が落ち着いて最初の交換日であった為、「今日が一番賑わっている」と従業員は対応に追われていた。

担当者は「12月にもリンゴの買い取りと、ジュース交換が行われるので、多数のご利用お待ちしております。」と呼び掛けていた。

topics

正しい処理方法で廃棄

06

11月26日～27日の2日間当JA湯口支所、相馬支所において農業用使用済みプラスチック収集を行った。

毎年夏と秋に行われており、農作業も終わったことで多くの生産者がシルバーストや農薬の空容器を持ち込んでいた。今回から枝受け支柱も収集可能とし、持ち込んだ生産者は「最近この支柱を捨てるのが無くて困っていたので助かる。」と言っていました。

topics

贈答用リンゴが  
ピーク迎える

07

当JA特産販売課では、贈答用リンゴの詰め合わせや、配送準備が最盛期を迎えていた。

人気の「みつまるくんシリーズ」や「飛馬ふじ」、ふじと王林の詰め合わせなど、様々な種類の製品が準備され、関係者は注文の対応に追われていた。

「去年よりも多い注文を頂いているので協力して届けたい。」と成田主任は意気込んでいた。

topics

ラフレッツで  
迅速な対応

08

当JA金融共済課では12月4日から、本格的にタブレット端末「ラフレッツ」を使用した事業の展開が始まった。

この端末を使う事によりお客様の元で各契約の内容確認から、契約の完了までを行う事が可能となった。

課員は「早く操作に慣れてお客様に早く、分かりやすい説明が出来るようにしたい。」と意気込んでいた。